

二宮町行政評価について（意見）

「第5次二宮町総合計画後期基本計画」に係る政策及び施策の進捗について、町の内部評価を踏まえ、二宮町政策評価委員会として評価を行いました。4本の政策について、それに紐づく13本の施策の進捗を踏まえ、概ね順調であると評価できるものの、今後の更なる人口減少・少子高齢化への対応や新庁舎整備を含めた防災対策、コロナ禍における事業の推進など、取り組みの拡充を求める意見や、適正な評価を実施するための課題についての意見が見受けられました。

令和5年度からの第6次二宮町総合計画の取り組みや、今後の行政評価に際し、本委員会の意見を参考に、未来を見据えた行政運営を進めていただければと思います。

各委員から様々な意見が出された中で、総論として、次の3点について、意見を述べさせていただきます。

1点目は、町が進める「二宮らしい」魅力や取り組みのイメージが町民と共有できていないことについてです。具体的には小中一貫教育や「にのみやLife」がなぜ二宮らしいかが町民に理解されていないことから、取り組みの内容や今後の方向性も理解されていません。これらを含めた各取り組みが、十分に町民に周知され、町民と共通理解の上に事業を進めていく必要があります。

2点目は、新庁舎整備を含めた老朽化した公共施設の早急な再編についてです。新庁舎のラディアン周辺への移転と駅周辺の公共施設の再編は、単純に公共施設の老朽化の問題ではなく、自然災害への対応力の強化や全町的な高齢化に伴う福祉的視点もあることから、着実かつ優先的に進めていく必要があります。

3点目は、評価のあり方についてです。同時期に評価した総合戦略と比較し、一つの施策に含まれる取り組みの範囲が広いことと、KPIのように客観的に判断できる指標がないことから、特定の評価を下すことに課題があると感じました。今回の行政評価における政策評価は初めてとのことでしたが、委員会からの指摘を真摯に受け止め、適正な評価が行えて、取り組みに必要な反映がなされる改善をしていく必要があります。

最後に、本委員会の全体の議論が、変化し続ける時代に柔軟に対応しつつも、持続可能で魅力あるまちづくりに資するよう、次期総合計画や関連する他の計画・取り組みにおいてもPDCAサイクルとして活用されることを期待しています。